

入野小学校 校長室だより

2015. 1. 23(金) No. 35 文責：芝

こんな姿を引き継いでいく

俺に似よ 俺に似るなど 子をおもい

麻生 路郎

有名な川柳なのだそうです。私もこの句は以前から耳に残っていましたが、作者名はもちろん、秀作として有名だということも知らず、「なかなかええがやない？」と、ちょっと上から目線で記憶していました。

学校という舞台でも、子どもたちに「似てほしい」というか、引き継いでほしいということはあります。

低学年の担任の先生から、上級生が下級生にやさしいという話が出ました。

「下級生にトラブルがあった時にも、間に立ったりして、よくかかわってくれる。」

「一緒になって遊んでくれる。」

とのこと。何かの流れで『上級生が怖い』という学校の話題になった時にも、

「入野小学校は違うね。」

「みんな、やさしいね。」

というような話になったとか。

「みんな、上級生が好きみたいです。」

ということでした。

私も昼休みなどの様子を見ていて、上級生



が下級生にかかわっている場面を何度も見えました。けんかのようになった中に入って話を聞いてくれたり、一緒に遊ぶにしても、左下の写真のように長縄を回してあげるといようなフォローもありますし、バスケットボールを一緒にするなど、自然に加わって遊んでいるような遊び方もあります。それぞれの上級生が持っている個性を感じさせる接し方ですが、共通しているのは眼差しのやさしさだし、お兄さんお姉さんとしての大らかさだし、子ども時代から青年期に向かおうとしている心の変化だろうと思います。

前の『校長室だより』に『上級生の姿が下級生への大きな教育力』であり『学校の財産』だと書きました。具体的には「こんな姿」が思い浮びます。「こんな姿」をこれからもずっと引き継いでいってほしいと願っています。

ところで、このことから考えると、義務教育が小学校と中学校に別れていて良かったと思いませんか。もし、9年間で一つの学校で1年生から9年生まで一緒だとしたら、上級生らしく活躍できるのは8年生・9年生になります。今の形で5年生・6年生が上級生として活躍する機会があるというのは、とても意義のあることだと思います。

インフルエンザで大ピンチ

インフルエンザで“入野小ピンチ！”です。

教室をのぞいてみると、1/3くらいの子どもたちが休んでいる学級もあります。何とか終息に向かってほしいものです。今週の生活朝会でも、子どもたちに「うがい、手洗い」と「休養、栄養」を訴えました。病気の原因になるバイ菌・ウイルスは身の回りにウヨウヨいるはず。それで病気になる人もいれば、ならない人もいます。病気のもとをできるだけ体内に入れないことと、少々入っても体内の抵抗力で発症しない身体作りを願っています。「うがい・手洗い・休養・栄養」です！